学びの広場 2018

【問い合わせ】教育課　学校教育係　☎(83)7023
教育課　生涯学習係　☎(83)7021

より良い学校教育の実現に向けて
～「松田町の学校教育制度等のあり方に関する検討委員会」経過報告～

今月は、本紙3月号学びの広場掲載の、「町立学校の校舎建設について」の中でお知らせしました、「松田町の学校教育制度等のあり方に関する検討委員会（以下、「検討委員会」）のその後についてお伝えします。

昨年11月の総合教育会議（町長と教育委員にて構成）において、将来の子どもを取り巻く教育環境や、国が新たに制度化した「小中一貫校」などの議論を踏まえた上で、今後の町立学校の校舎建設について検討を進める必要があるという結論に至りました。

そこで教育委員会では、学識経験者、学校や保護者の代表などによる検討委員会を設置し、現行の学校制度を含めた小中一貫校および義務教育学校の制度や学校教育のあり方について、これまで5回にわたって調査・検討を進めてまいりました。

検討委員会における検討内容

■町が目指す子ども像

少子高齢化の進行、急速な情報化や技術革新、グローバル化の進展など、予測困難な時代を生き抜く子どもたちには、社会の変化に主体的に向き合い、進んで学び、周りと積極的に関わり合う中で、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮してよりよい社会と豊かな人生を切りひらいていく力が求められている。

◇子どもの身につけたい力
〈自立・創造・共生〉を基本に、「たくましく未来を切りひらく力」の育成

◇目ざす子ども像
○確かな学力を身につけ、自ら進んで学び続ける子
○自らの可能性に向かって粘り強くチャレンジする子
○「いのち」を尊び、優しさや思いやりのある子
○人や自然との関わりを大切に、広く社会に貢献できる子
○人権感覚や国際感覚豊かで、世界を舞台に活躍できる子
○地域の伝統文化や産業に学び、ふるさとに誇りの持てる子

■今後の検討課題

幼稚園、小・中学校が連携協力関係を一段と強め、学校のビジョンや目標を共有し、地域の特性を生かした教育課程の編成を通して、系統的で一貫性のある、魅力ある教育活動を展開することにより、新たな時代に求められる資質・能力を確実に育んでいく必要があります。

また、地域とのつながりの中で学校教育を進めることは、地域との連携強化や信頼関係の構築のためにも大切です。学校を地域の中核に据えて、協力して学校教育を支える仕組みづくりを進め、子どもたちに多くの人やもの、地域との関わりを通じて社会性を育むとともに、郷土の魅力や地域の良さに気づかせることも大切です。

5回の検討会議を通して、**「豊かな心をもち、たくましく生き抜く力の育成」**と**「社会と関わる力の育成」**は、未来を切りひらいていく大きな原動力となるという認識に至りました。今後は、国から示された学校制度の多様化も視野に入れ、町民の皆さんのご意見やご要望を参考にさせていただきながら、議論をさらに深めてまいります。

6月の中・下旬に、中間でのパブリックコメント（意見募集）も予定していますので、ぜひご意見をお寄せください。

第2回　古文書講座「松田町の古文書を読もう」

町の古文書から時代背景を読みとります。初回は「江戸時代の村の古文書」をテーマに行ったところ、大変に好評でした。歴史に興味のある方は、ぜひご参加下さい。

6月9日（土）午前10時～11時30分
町民文化センター　展示ホールにて
講師：神奈川県立公文書館　上田（うえだ）　良知（よしとも）さん
【申し込み】教育課　生涯学習係　☎(83)7021

松田文化財探訪

矢倉沢往還 26

文化財保護委員　草門（くさかど）　隆（たかし）

「当町内の矢倉沢往還」に対する読者からのご意見について

「当町内の矢倉沢往還」について、個々の見どころを写真付きで解説した『歩いてみよう松田の歴史』（初版　平成24年松田町発行）の中のサブタイトル「青山街道本道争いの道を偲ぶ」（筆者担当）の内容について、隣町の郷土史家のご意見では、『矢倉沢踏切という名をもって、矢倉沢往還とは言えない』と言うことです。確かに、これを否定するつもりはありませんし、他の人もそのような想いもあるのではないかとさえ感じます。

しかし、『まつだの地名』（松田町発行）の中で「矢倉沢踏切」の項に「御殿場線が矢倉沢往還を横切る踏切」とあります。加えて、本連載の「松田惣領・庶子境道コース」（平成28年3月号、5月号）に詳細を記した通り、御殿場線松田駅周辺の多くの踏切名を現認し、個人的見解として「踏切のある場所の字名か、近くにある歴史または公的建物等の名を引用している」と言うことを見出したが、この見解を補強すべきことができました。

それは3年前、この往還の矢倉沢以西を沼津駅まで史蹟・地形・踏切などに関心を抱き、友人と3日を要して踏破した際に、東海道本線・沼津駅直前の124キロメートル地点の踏切名がなんと「箱根裏街道踏切」（写真①）であることを現認することができました。それ故に当町の踏切名も「矢倉沢街道踏切」としていただけていれば、より多くの人がご理解・納得を得られたのではないでしょうか。

写真①

そして、懸案であった「矢倉沢以西から沼津までの道の呼称」については、随所に設置された表示板により「矢倉沢通り」であることが判明いたしましたが、「矢倉沢通り」と言っても当地のように、場所場所により「甲州街道」「鎌倉街道」「箱根裏街道」などと横に小文字で書き添えてありました。この表示の設置団体は「NPO富士山御殿場ガイド・御厨（みくり）の風」（写真②）です。

写真②

次回は本連載の最終回となります。